



大磯の

左義長

1月10日(木)～12日(土)
道きり・七所参り・オカリコ
1月13日(日)

セエトバレエ
18時30分頃 点火
19時頃 ヤンナゴッコ

問 生涯学習課 内線 323
産 業観光課 内線 334

「大磯の左義長」と言われて、一般的に皆さんが思い浮かべるのは燃え盛るサイトではないでしょうか。北浜海岸に立ち並ぶサイトに一斉に火が付き、砂浜が照らし出される様子は、見る人たちに強烈な印象を与えますが、実は燃え盛るサイトは「大磯の左義長」のほんの一部でしかありません。

前年の十二月八日に行われる「一番息子」、サイトに利用する松を準備する「松買い」、それぞれの地区の境を示し、祭りの場を準備する「道きり」、子どもたちが小屋に籠る「お仮屋」、地域の人々が下町の道祖神を巡る「七所参り」など、道祖神に係った小正月の一連の行事が、「大磯の左義長」として国指定重要無形民俗文化財に指定されています。

「ヤンナゴッコ」も、「大磯の左義長」を形作る行事のひとつです。この行事は、木製のソリについた綱を浜方と陸方とで引き合う行事で、浜方にはふんどし姿の若い衆が、陸方には地域の方が参加します。浜方が海の中にソリを引き入れます。陸方ではソリを陸に上げようと、引っ張りますが、若い衆も簡単には陸には上げさせません。何度か綱の引合いを演じた後、ヤンナゴッコのソリは砂浜に引き上げられます。



地域を二分して行われる綱引きは、全国各地の農村や漁村で行われています。これらの行事は一年間の収穫を占う行事として行われており、綱引きに勝った側に豊作や豊漁がもたらされるといわれています。「ヤンナゴッコ」も最後には必ず陸方が勝つことから、ふんどし姿の若い衆は海から引き上げられる魚を横したものといわれ、占いという形を取りながら大漁を祈願する行事だと考えられています。